本蔵院からの季節のおたより

数々修習

「さくさくしゅうしゅう」

vol.12

春号

平成三十年三月一日発行

◆住職からのご挨拶
◆「さくら祈願」のお知らせ
◆年末年始のご報告
◆春のお彼岸法要

数々修習とは?

道を求める事、つまり見道・求道を繰り返し繰り返し反復するという意味です。私住職もこのお便りと一緒に熟していければと思っております。

熊本地震から二年が経ちました

「本蔵院」だからこそできることに、一つずつ取り組んでまいります

平成二十八年四月に発生した熊本地震。未曾有の災害からこの春で二年を迎えようとしています。早かったような、長かったような二年間であったように思います。

地震後は、本蔵院としてできることにこつこつと取り組んでまいりました。

宗教を超え、神社と寺院が手を取り合い祈りの世界を作り上げた「百螺祈願」。その際には本蔵院の総本山醍醐寺の阿蘇神社、加藤神社への「醍醐の桜」の植樹をいたしました。さらに、震災一周忌には熊本の復興を祈る梵鐘を島崎・菩提樹苑に建立しております。

また、昨年春梵鐘の完成に合わせて行った「さくら祈願」もその一つです。これは、子どもたちが阿蘇神社ならびに加藤神社を巡り、植樹した醍醐の桜に洒水(水やり)を行う巡礼の旅です。震災からの復興を願う子どもたちが、自然の力と熊本の歴史を肌で感じ、作法礼節を身につけることを目的としています。昨年は、一日目は雪の阿蘇、二日目は晴天の熊本を二十五人の子どもたち全員が歩ききり、一回りも二回りも大きく成長した姿を見せてくれました(裏面に、あらためて昨年の様子を写真にて紹介しています)。

今年も同じルートで行う予定としています。今年から参加費をご賛同者のご協力によって賄い、より多くの子どもたちが参加できるような企画といたしました。檀信徒の皆様におかれましては、さくら祈願の趣旨にご賛同を賜り、一人でも多くの方にご協力をいただければと考えております。心よりお願いを申し上げます。

また、昨年末の除夜の鐘、年が明けての初不動(一月の月例護摩祈願)ならびに二月の星祭節分会に多くの方にご参拝いただきましてありがとうございました。嬉しかったのは「除夜の鐘を初めて撞いた」「初めてお寺に来た」といった方が多くお見えになったことです。お寺は老若男女が集い、ゆったりと気持ちを落ち着かせる「心の拠り所」です。本蔵院のさまざまな儀式、行事がお寺を身近に感じていただけるきっかけになればこれほど喜ばしいことはありません。

これからも本蔵院だからこそできることに一つずつ取り組んでまいります。ご理解、ご賛同をいただけましたら幸いです。

合掌

平成三十年三月吉日

第二十世住職 藏本崇正 拝

第二十世住職　藏本崇正

本蔵院からのお知らせ

NEWS 01

3月21日(祝・水)の春のお彼岸法要へご参拝ください

1年のうち、昼夜の長さが同じとなる春と秋の彼岸。この日に寺院へ参拝したり、お墓参りをしたりすることで先祖の御霊を弔います。本蔵院では、春のお彼岸法要を3月21日(祝・水)に執り行います。今年も数人ずつ円座になり、二十直径3メートルほどの巨大なお念珠を、念仏を唱えながら回す「百万遍の念珠の会」も行います。もちろん会のお楽しみ、坊守手作りのお斉(昼食)もご用意しています。皆様のご参拝をお待ちしています。

春のお彼岸法要のご案内

○ 開催日　3月21日(祝・水) 10:30〜
○ 場　所　本蔵院 本堂

※駐車場がございません。公共交通機関の利用か付近のコインパーキングの利用をお願いいたします。
※参加申込み、詳細については同送のチラシをご覧ください。

子どもたちの手で、熊本の復興を祈る

阿蘇神社・加藤神社・菩提樹苑を歩く 巡礼の旅「さくら祈願」

昨年開催し、二十五人が参加した「さくら祈願」。子どもたちが震災復興を祈念し、阿蘇神社と加藤神社、菩提樹苑を歩く、一泊二日の旅です。三カ所に植樹された「醍醐の桜」に、阿蘇・国造神社奥の「手野の名水」を洒水(水やり)し、復興への祈りを捧げます。

熊本地震を引き起こした自然の力と、熊本の歴史と文化を肌で感じる経験は、子どもたちの大きな成長につながることでしょう。今年から有志のご寄付により運営することで参加無料とさせていただきました。ぜひとも同封の趣意書をご一読賜り、お一人でも多くのご協力をお待ちしています。もちろん子どもたちの参加も大募集。お子さん、お孫さん、ひ孫さんにお声掛けください!

さくら祈願

日　時
平成三十年三月三十一日(土)〜四月一日(日)
※一泊二日

参加料　無料(有志のご寄付により運営されます)

対　象　新一年生〜新六年生の子ども

定　員　三十人程度(先着順)

お申し込み
①まずは、本蔵院までお電話ください。
TEL 096-364-4848
概要や、諸注意点などをご説明いたします。
②その後、ウェブサイトから
正式にお手続きをお願いいたします。
http://sakurakigan.com
※下のQRコードより開くこともできます

問い合わせ
本蔵院 TEL 096-364-4848
※子どものみの参加となります
※ご不明な点があればお電話にておたずねください

醍醐の桜とは

京都総本山醍醐寺には豊臣秀吉ゆかりの「太閤しだれ桜」があります。この桜をクローン技術によって現代に蘇らせたのが「醍醐の桜」です。熊本地震からの復興を祈り、全国の当山派修験者総勢百人が集結した「百螺祈願」にて、加藤神社と阿蘇神社に植樹されました。また菩提樹苑にも同様に植樹、熊本復興への新たなシンボルとなりました。

行程　一日目

8:00	本蔵院集合
8:30	出立式
9:00	本蔵院出立(バスに乗り阿蘇へ移動)
11:00	手野の名水(水を汲み、水神様にお参り)
11:30	手野の名水出立
12:00	国造神社到着(阿蘇のお話、神社についてのお勉強) 昼食(お弁当)
13:00	国造神社出立(徒歩にて阿蘇神社へ)
15:00	阿蘇神社到着(洒水、記念撮影、阿蘇神社の被害と歴史についてお勉強)
16:30	旅館「金時」へ(入浴・食事)
19:00	お楽しみ会
20:00	就寝

行程　二日目

6:30	起床
7:00	朝食準備、朝食
8:00	出立準備
9:00	旅館出立(バスに乗り熊本へ移動)
11:30	加藤神社到着(洒水、記念撮影、熊本城の被害と歴史についてお勉強)
12:00	加藤神社出立
12:30	菩提樹苑到着(桜を見ながらお弁当)
13:30	復興の鐘到着(洒水、復興の鐘を撞き、祈りを捧げます)
14:00	お花見
15:00	解散

※行程は変更となる可能性がございます

年末年始の本蔵院は大忙し!

除夜の鐘、初不動、星祭節分会 多くの方にお越しいただきました

年末から年始にかけて、本蔵院では「除夜の鐘」、年が明けての一月月例護摩祈願、二月星祭と行事、儀式が続いて目の回る忙しさでした。

いずれにも多くの方にお越しいただき、この場を借りて感謝申し上げます。今後もさまざまな儀式、行事をきっかけに、より多くの皆様との縁ができますことを楽しみにしております。

除夜の鐘

昨年末から新年にかけての「除夜の鐘」。初めての試みで不安もあったのですが、当日は三百人を超える方々にお集りいただきました。鐘を撞くのはもちろん、隣で修した護摩行を「初めて見た」という方の声も多く聞かれました。お越しいただいた皆様は、新年へと向かう気持ちを清められたのではないかと思います。

ちなみに、「除夜の鐘」のテレビCMを年末に流しました!ご覧いただけた方もいらっしゃるかもしれません。かわいいモデルにお気づきでしたでしょうか?「本藏院のホームページ」ではまだ見ることができますので、どうぞチェックくださいね。

気は早いですが、今年も開催いたしますので、お楽しみに。

鐘の横で護摩を焚き、参拝者の願いを焚き上げました

一月の月例護摩祈願(初不動)

毎月二十八日に行っている月例護摩祈願。一月、五月、九月は大祭として、護摩木をお不動様の智火(ちか)に投じていただく「内拝」が行われます。今年、一月二十八日に行われた大祭では、日曜と重なったこともあり、約百名もの方々にお越しいただきました。想定より多く、お斉が足りないかと心配になるほどでした。

また、お不動様に読み上げる口上(祈願文・きがんもん)を、初めて印刷し皆様にお配りいたしました。お不動様へのご参拝にはどんな意味があるのか、お分かりいただけたのではないかと思います。

星祭節分会

例年節分に合わせ行う「星祭」。本蔵院で一年を通し最も盛り上がる行事の一つです。例年になく多くの方にお越しいただき、最年少は〇歳の赤ちゃん、そして最年長は九十歳代のおばあちゃんと、幅広い世代が集まりました。

今年一年何事もなく過ごせるよう祈願した後、迫力ある鬼が登場!　思わず泣いてしまう子どもたちもいました。「悪鬼」が「福鬼」に変わる本蔵院の豆撒きは「福はうち、鬼もうち」が掛け声。参加者全員で豆を撒きました。

抽選会で賞品が当たった方、当たらなかった方、悲喜こもごも。最後には恵方巻きと温かい五智汁のご接待もあり、皆様笑顔でお帰りいただきました。ありがとうございました。

発行元　本蔵院「数々修習」編集室
(文責／藏本崇正　担当／宮本ゆりこ)
〒860-0811 熊本市中央区本荘6-15-50
TEL 096-364-4848
FAX 096-364-9570
info@honzouin.or.jp